

医学生時代の  
フィールド体験により、  
誰が水俣病患者さんの味方か  
民医連か大学か  
たいへん明白だった

はじめに

大学を卒業して千鳥橋病院に就職してちょうど35年半になります。現在、福岡市西区にあります千鳥橋病院附属新室見診療所に勤務中です。折しも新室見診療所30周年という節目にあたり、「わたしの民医連」を考える機会になりました。診療所開設30周年式典には、320名もの沢山の方が参加され、熊本民医連の板井八重子先生の水俣の取り組みや、いまだに収束のつかない福島を語る講演、コンサートで大いに盛り上がりました。私は、初代所長として1981年から1983年、14代所長として2001年から2004年、そして16代所長として2006年から現在まで所長を担当しています。初代の頃、新興住宅地であった

シリーズ

# 伝えていきたい 私の民医連 26

福岡・千鳥橋病院附属新室見診療所 所長 熊谷 芳夫(61歳)



西区はまだ田んぼが多く、近所の市営住宅をはじめ子どもさんや妊婦さんが多く、小児科は少なく、外来は小児の患者さんで

いっぱいでした。健康体操教室や民主商工会、福岡県建設労働組合の団体健診をおおいに取り組み、また最初から、往診や、デイケアも手掛けました。若い新米所長で毎日、はらはらどきどきの連続で千鳥橋病院の先輩医師に相談し怒られたり、患者さんに迷惑をかけた失敗談もありました。一方、近医で熱を出して治らず重症化していた数カ月の赤ちゃんを入院させて治したこともあり、今でもお母さんから感謝されています。その子も今30才のパパです。そして私は、この西区にその時以来住み続けています。巣立っていった私の3人の子どもたちにとってはふるさ

とです。

その後、歴代所長、婦長、事務長、スタッフの奮闘、地域のみなさん、友の会のみなさんの支えで診療所は発展し、最高時は一日平均100名の患者さんが来られました。

病気になっても病院にかかれぬ方が  
どんどん生まれるなかで

時は過ぎて、診療所も高齢化社会、介護保険の時代に入り、訪問



初期の乳幼児検診





新室見診療所落成祝賀会 (1981年)

看護ステーションを併設、デイケア施設を作り、ケアマネージャーも配置しました。デイケアは介護保険ができる前からボランティアでがんばっていましたが、スムーズに移行することができました。

その後、ひとり暮らし専用の共同住宅と連携し往診するようにな

り、往診数が2倍3倍と飛躍的に増えるきっかけとなりました。現在往診数約150人です。

政府の悪政の下、貧困が進み、医療の改善が進み、病気になっても病院にかかれぬ方がどんどん生まれています。診療所は無料低額診療をやっているというところで、医療生活相談会や市議会議員を通じて申し込みが急増しています。そしてその方々が新たに診療所を支えてくださっています。診療所が困った方々の最後のより所として貢献できていることを誇りに思います。

また被爆者や水保病患者さんなども支援活動を通じて診療所を多く利用されています。30年間の診療所の奮闘は西区社会保険推進協議会の結成に貢献しましたし、4年前に市議会議員(私の妻)が4回目の挑戦で2007年に初当選、昨年、2011年に再選しま

した)を誕生させる原動力となりました。

原点は学生時代の水保病フィールド活動

このように私は現在も第一線で、しかも自ら立ち上げた診療所で楽しく民医連活動を続けています。これが可能となったのも、原点は学生時代の水保病フィールド活動で、その場を提供していただいた板井八重子先生を始めとした熊本民医連のみなさんに感謝します。医学生にとって誰が水保病患者さんの味方か、民医連か大学かがたいへん明白でした。

その結果、大学ではなく民医連で脳神経の医療をしようと思ひ千鳥橋病院に入りました。そして脳卒中の予防からリハビリを旗印に、CT、脳血管造影など急性期診断・治療に専念し、大阪の国立循環器病センターにも専門研修



友の会西支部総会旅行にて妻(現福岡市議会議員)とデュエット

に行きました。救急医療に取り組み中、後輩も増え、次第に高齢者医療の方にシフトし管理業務も担うようになりました。千鳥橋病院長も経験し、北九州の健和会への支援にも取り組み、貴重な体験と多くの仲間を得ました。さらには福岡民医連の会長という重責も担うことができ、ほんとうに民医連ならではの経験をしてきました。今は往診や、認知症、ターミナルケア、看取りなど在宅医療に全力投球中です。そしてデイケアから、高齢者の住まいの問題へと贅沢な展望も考えています。これからの地域のみなさんとともにかけがえない民医連診療所を発展させていきます。これが私の民医連です。